

山と電気の風景論 ③①

常念岳と白馬岳～安曇野の清流と大雪渓の天然水溢れる名峰～

セリングビジョン(株) 代表取締役 岡部 秀也

北アルプス登山デビューに適する両座

昨夏は白馬岳、今夏は常念岳に登った。

本年は異常な暑さが続いたが、さすがに3000m級の北アルプスは涼しいだろうと、台風13号が房総沖にスライスした直後に8月の常念岳山行を決意した。故郷に近く実家から毎日、仰いでいたよく目立ち均整のとれた愛着ある山岳だ。この常念岳に最初に登頂したのは20代の電力マン時代。常念岳から大天井岳、槍ヶ岳を目指したが、強風と雨のためコースを変え蝶ヶ岳から上高地にずぶ濡れになって下ったやんちゃな頃だ。仲間と蝶ヶ岳のテング場で張ったテントが飛ばされそうになった苦い思い出がある。



今回は好天に恵まれ常念小屋に隣接したテント泊で登山口からピストンをした。一方、白馬岳は昨年に猿倉登山口からの大雪渓コースを経て、柵池に下りる周回だった。大雪渓コースは初めてだったのでワクワクしながらアイゼンを蹴って歩んだ。白馬岳は登山も人気だが、山麓のスキー場はダイナミックで、コマクサなど柵池自然園の散策も心が癒される。両座ともに、峻険な岩盤山岳地帯が集まる北アルプスにあって、北アルプスへの登山者がデビューするポピュラーな山である。

白馬岳

平成29年8月6日～7日、標高2932m、全行程16.1km(標高差：上り1700m、下り1085m)、11時間35分(休憩と山頂～白馬山荘往復含む)。

【概要】

- ・8月5日(土) 都内で夜行専用バスに乗車。この「毎日アルペン号」竹橋ロビーにはザックを背負う登山者であふれていた。
- ・8月6日(日) 登山口の猿倉荘に5時前着。朝食食べ、まず林道を辿り次に大雪渓をアイゼン歩行で、白馬山荘目指す。お花畑が絶好の見ごろ。山荘～頂上往復。



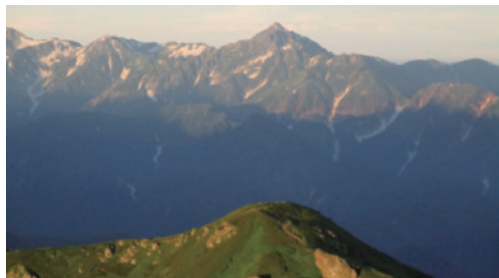
白馬の大雪渓の登り口

す。お花畑が絶好の見ごろ。山荘～頂上往復。

- ・8月7日(土) 朝食後に白馬岳頂上にて好天で撮影。年配の登山者と同行し白馬大池まで連峰の絶景を堪能。柵池で食事、日帰り風呂に入る。豪雨のため御殿場経由で帰る。登山中は好天で帰路は雨。ラッキーだった。

【登山行程】

- ・8月6日(日)
 - 4:45 猿倉荘着
 - 5:38 朝食、登山届け、コースアドバイス受け出発。山野の沢道、木道、土道を通過し紫陽花、高山植物を撮影。
 - 6:31 白馬尻荘。
 - 6:51 大雪渓でアイゼン一時間強着用。クレパス用心。
 - 8:09 アイゼン外す、これから夏道。渓流や岩石ルートを慎重に。ついお花畑に夢中になる。雪渓では約100人に会う。上り70下り30の割合。まさに蟻の行列でツ



白馬山荘から立山連峰の剣岳などもくっきり



白馬岳頂上にて



お花畑の向こうに鹿島槍ヶ岳、五竜岳方面を遠景

- アーが多く抜けない。スローペース。
- 9:25～9:38 岩室跡の冷えた湧水で直射日光浴びた身体をクールダウン。30人も休憩。その後、小雪渓トラバースし高度を上げる。
- 10:00 高度2300m。
- 10:40～10:50 頂上小屋で休息し尾根道へ。
- 11:05 白馬山荘着。旭岳と稜線から白馬岳山頂見る。
- 11:20 白馬山頂着。ガスってハイタッチして戻る。
- 11:35 白馬山荘。
- スカイプラザ白馬で喫茶しつつ山バッチなど記念品購入。トイレや休憩室も充実。公共機関のない山小屋としては最大(1200人収用可能)かつ最も施設が整備されているという。アルプスでは立山室堂のホテル内レストランの雰囲気がありつつ長居した。ガスがなかなか晴れない。夕方5時頃から雷を伴った豪雨。九州から四国、本州を縦断する台風5号の影響だ。デジカメ、携帯の充電システムがある。山荘づくりの歴史を研究しお花畑など資料を見る。8人部屋に5人でゆとりだ。同年輩の登山家と明日も同行に。
- 18:00 夕食、その後就寝。
- ・8月7日(月)
 - 4:20 起床、4:50朝食。
 - 好天で日本海方面や富士山や、後立山連峰の立山、剣岳などパノラマが遠景。大雪渓と高山植物やお花畑が魅力。日本海や剣岳、富士山、南アルプスなどが展望できる。今年は残雪が多く、水流も豊富。

- 5:32 白馬山荘発。
- 5:46～5:56 白馬岳。
- 6:25 三国境。
- 7:00～7:10 小蓮華山。
- 7:54～7:59 船越の頭 尾根道。両側にチングルマ畑。
- 8:44～48 白馬大池山荘着。ヘリコプター荷卸し見る。
- 9:20～9:25 乗鞍岳天狗原。
- 10:20 銀嶺水。
- 11:25 柵池ヒュッテ、山荘着。靴、ストック、スパッツ洗い。登山仲間と乾杯。信州の蕎麦、漬物は旨い。
- 11:53 ゴンドラ駅着、12:00乗る。
- 12:30 柵池駅着。「柵の湯」で日帰り入浴。
- 14:45 柵池を専用バス発。梓PAのあとゲリラ豪雨で中央道ストップとなり富士河口湖、富士山麓道を走る。
- 21:05 新宿着。

常念岳

平成30年8月10日(金)～11日(土)、標高2857m、全行程12.4km(標高差1528m)、10時間21分(休憩含む登山口からの往復時間)。

【登山行程】

- ・8月10日(金)
 - 7:55 新宿発。
 - 11:30 塩尻駅でレンタカー。
 - 13:03 一ノ沢駐車場。
 - 13:15 中部電力水力発電所。
 - 13:22 一ノ沢登山口出発。
 - 13:08 河原休憩。
 - 14:20～14:30 大滝ベンチ。
 - 15:30～15:40 上河川石場。
 - 16:05～16:10 橋渡り、丸太休憩。水流つけたタオルで頭冷やす。
 - 16:26～16:30 最終水場休憩。
 - 17:35～17:40 第二ベンチ(あと500m)。
 - 17:55 常念小屋。テント敷き、食料自炊。近くの大学生がテント設営を手助けしてくれた。雨が降り始めたため助かった。
 - 20:05 就寝。



奥の常念小屋の前にテント場があり便利



常念岳の山頂にて



以前歩いた蝶ヶ岳への縦走路を展望

- ・8月11日(土)(山の日祝日)
深夜3時頃まで雨降り、強風。その後、雨は止むが、風は相変わらず吹く。
- 4:45 起床。不思議にも雨が止み、風も弱まった。ご来光のため10人ほどで雲の合間からの日の出を待った。谷底からのガスでご来光はかすかに見えた。
- 5:15 小屋(テント場)発、頂上へと「VICTORY ROAD」をつづら織りで火山岩、火山砂土を進む。頂上と思った岩壁の先に本当のテッペンが待っていた。
- 6:33 頂上着。
六人ほどで写真を取り合った。祠の笠の裏に蝉がへばりついていたのを山ガールが見つけた、これ凄いな、山頂目指してどうやってきたのか?何ていう蝉だろう?茶色の油蝉が這いつくばって生きていた!
槍ヶ岳方面はやや雲で隠れていた部分があったが、早朝のためパノラマ写真、動画が取れた。
- 6:52 頂上発、下山。
- 7:48 常念小屋(テント場)テントで朝食を自炊し、テント片付け。小屋でソフトドリンクとバツジ買う。帰りは下りで水場豊富なため全体的に快適だが、やはり距離は長いし石場は滑り易いため注意した。
- 9:30 常念小屋発。
- 10:03 第一ベンチ。
- 10:20 胸突八丁。
- 11:45~11:55 大滝ベンチ。
- 12:30 山の神。参拝し安全登山のお礼報告。
- 12:45 登山口着。



安曇野の清水と、常念岳一ノ沢口の中部電力水力発電所

- 12:58 駐車場着。
- 13:15 ほりで〜ゆ。学生時代に須佐渡でキャンプしたが、そこに隣接したこの温浴施設がでか汗を流す。
- 14:15 発、17:07塩尻駅発(JRあずさ)で新宿へ。

松本・安曇野の電力関係者や先輩や同級生と交流

常念岳、白馬岳は、雪渓や雪解け水などが豊富な水源である。狭い沢の急流が広い河川の清流となり、盆地や扇状地を形成している。安曇野を含む松本盆地には湧水・井戸水が多く見られ、わさび田湧水が有名である。白馬村は、姫川の谷から白馬盆地を抜けるルートは古くから糸魚川市から松本方面へ抜ける交通路となり、塩の道として利用されてきた。梓川水系、姫川水系とも信州の農作物、酒造づくり、生活・工業用水のベースになっており水力発電による精密工場などの産業電化にも役立っている。地元にも電力関係者が多い一因だ。

電気倶楽部の会員で高校(松本深志)卓球部の大先輩T弁護士は東京で仕事をしつつ、別荘を常念岳山麓の安曇野に構え、訪問時に、焙煎珈琲を淹れていただき登山の思い出話を、聞かせていただいた。

中学(清水)、高校の同級生の山岳写真家は、常念岳だけを定点観測して雑誌を発行している。筆者も雑誌を書斎の一角に置き時々眺めている。

当社をよく訪問される電力仲間のK氏は、先日、燕岳〜常念岳などを日帰りトレランするバイタリティあるツワモノである。

また岳友で大学同窓の島矢氏からは、白馬岳の情報などももらったり、逆に、筆者の後に常念岳に登られたため事前情報を流し情報交流を図っている。

同窓の諸先輩・仲間にはただ感謝しかない。

今回は、日中は暑く、夜間の雨天もあったが雪渓、清流と湧水を見つめ喉を潤し両座からの絶景をゆっくり味わえた。一期一会の登山仲間と登頂し、下山後、汗を流し、信州そばを食べると、ホッと一息。登山はストレスに耐え、「初志」に戻りリフレッシュする効果もある気がする。

日中は珈琲、夜は安曇野わさびと地酒を呑み諸先輩・仲間らと懇談すると疲れも吹っ飛ばす思いだ。